

千葉空襲で犠牲 650人の名前 非戦誓う

平和祈念碑 来月除幕 市民団体 寄付で建立

1945年、米軍による千葉空襲で犠牲になった約650人の名前を記した平和祈念碑の除幕式が7月4日、千葉市中央区の亥鼻公園で行われる。「悲惨な戦争を繰り返さないために」と、市民団体が寄付金を募り建立にこぎ着けた。ただ、戦後70年を迎えた今も犠牲者数など不明な点が多い。6月7日からの平和を考えるイベントで名簿を展示し情報提供を呼びかける。

7日から平和イベント

碑の建立は、「ちば・戦争体験を伝える会」と「千葉市空襲と戦争を語る会」などで行われる。2009年から文献や遺族の聞き取りをもとに名簿作成を続けてきた。

戦後70年

千葉空襲は終戦直前の7月7日(七夕空襲)など数回にわたり、市街地の大部分が焼け野原になった。実行委の伊藤章夫代表によると、約900人が犠牲になったとされるが、記録により人数は異なるという。

これまで実行委の活動で約650人の名簿ができ

た。碑の建設費約300万円は、賛同してくれた333人の募金でまかなう。

除幕式に先立ち、市民団体は6月7日から11日まで

同区の複合施設きばーるで「ピースフェア」を開く。

パネル展示や体験談発表などがあり、10日は「千葉市空襲70周年 戦争を繰り返さないための集い」だ。戦争体験の紙芝居のほか、碑の模型と犠牲者名簿を展示し、情報を募る。

イベントを主催するちば・戦争体験を伝える会の市川まり子代表は「戦後70年の節目に戦争と平和を考える機会にしてほしい」と話している。入場無料。

(大和田武士)